

**委託事業実施内容報告書
2019年度「生活者としての外国人」ための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】**

実施内容報告書

団体名:一般財団法人 ダイバーシティ研究所

1. 事業の概要

事業名称	生活者としての外国人が暮らしの中で学ぶための漢字学習支援
事業の目的	<p>地域に根ざして生活する外国人が、文字を獲得することによって、より広く、より深く社会に参加していく、社会の多様性に資することを目標として、漢字学習支援を行う。</p> <p>漢字教室においては、漢字について知識を得、必要な漢字が理解できるようになることを目指す。パソコンを使用し視覚教材を多用することで生活場面で目にする漢字語から漢字を学び、語にまつわる情報を得たり、文化的な背景を理解したりしながら、文字学習の方策を身に付ける。また、漢字を使って文を書くことを通じて日本語の文を作る力を身に付けながら、自己表現力を育成する。さらに、漢字教室を見学者に公開することで、生活者のための漢字学習支援方法の普及を目指す。漢字教室で使用する教材は独自に作成し、文化庁NEWSで公開して、各地からの利用を可能にする。</p> <p>養成講座においては、外国人の社会参加に繋げる文字教育を担う学習支援者を育成することを目指す。外国人の文字教育、および外国人の社会参加の必要性について深く理解し、多文化共生社会を目指す中での文字学習支援ボランティアのあり方を考えることで、受講者自身の意識改革をもたらすことを目的として、そうした分野に見識のある外部講師を呼んで講座を行う。漢字学習支援方法の普及については、講座を受講する機会が少ない周辺地域へ出向き、必要な人に必要な情報を届ける「出前」講座を行う。出前講座においては、漢字学習支援のスキルを学ぶにとどまらず、地域日本語教室を担うボランティアとしての姿勢を身に付けることにも留意する。受講者が講座で学んだことを実践し、結果を報告する機会を作り、振り返りを行うことで、よりよい活動につなげる。</p>
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	<p>大阪市においては、外国人対象の基礎教育として公的機関により基礎レベルの日本語教室が開催されており、ごく初步の日本語の知識と日常会話を学ぶことができる。しかし、文字に関しては生活言語を基本とした基礎レベルの文字教育を行う公的な教室がない。長年日本で生活するうちに流暢な会話能力を身に付けることは少なくないが、文字学習、特に漢字学習においては自然習得は望めないため、会話はできても読み書きができないという非識字の状態におかれてしまうことがかなり起きる。漢字学習をも基礎教育の一環とし、導入的な学習の機会を公的に提供することを求めて、教育委員会等自治体に働きかけを行ったが、即時の実現は困難であり、引き続き必要性を訴えていかねばならない状況である。</p> <p>一方、民間の日本語学校は、生活言語が基本となっておらず、受講料も高価であるため、生活者にとって適当ではない。また、地域の日本語教室では、会話が中心の学習が行われており、漢字はあまり学習しないか、適切な指導がなされていないため、漢字学習の挫折につながっている。さらに教室で行われる漢字指導の多くが、日本語教育・漢字指導の専門家がプログラム策定や運営に関わることがないまま運営されている状況にある。学習環境面についても、保育がある教室は少なく、文字習得のニーズが高い子育て中の外国人が参加できない状況にある。</p>
これまで日本語教育が行われていない市区町村の状況	
事業内容の概要	<p>1. 漢字教室</p> <p>漢字学習の場として</p> <p>教室において、まずは身の回りの漢字語を認識し、理解し、生活に役立てることで、漢字学習への動機付けを行うため、2回に1回のパソコン教室を利用する授業では、切り取って来た生活場面をパソコン画面に映し出し、場面中の漢字を認識し、漢字語の意味を理解できるように練習した。学習後、実生活の同様な場面で学習した語を目にし、学習内容を役立てることで、学習漢字の定着を促し、学習意欲の向上をはかった。</p> <p>また、保育所や学校からのお便り、病院での問診票、仕事についての履歴書、銀行や公的機関での書類などを取り上げ、個人として自立して社会生活が送れるように、重要な文字情報へのアクセスを可能にしながら、それぞれの場所のシステムや必要最小限のコミュニケーションを学んだ。</p> <p>さらに、自律的、継続的な漢字学習のために、漢字の字形や漢字の意味、漢字語の構成など、漢字に関する知識を学び、漢字に対する理解や興味を深めた。簡単な作文も行い、文の中で漢字を使えるように練習し、自己表現に繋げていった。</p> <p>地域の拠点として</p> <p>漢字学習支援について詳しく知りたいという要望に応えるため、漢字教室の見学受け入れ、また漢字学習支援の相談に隨時応じた。さらに、指導方法や教材の普及のための広報にも努めた。</p> <p>子育て支援および地域の多世代交流の場として</p> <p>子育て中の外国人が参加しやすい平日午前中に時間帯に設定し、保育をつけることで、漢字を学習する機会を提供すると同時に社会参加の機会とした。出身国や年齢を超えて、参加者同士が保育施設や学校についての情報交換を行ったり、子育て中の悩みや日本と出身国との子育て観の違いについて相談していた。また大阪市民である保育士も育児経験や地域に関する情報量を生かし参加者に手厚いサポートを行った。その結果、保育に子どもを預けることで日本語を学ぶことができ、就労に繋がった学習者もいた。</p> <p>2. 養成講座</p> <p>茨木、姫路、和歌山に出向き漢字学習支援者養成を行った。ボランティアとしての漢字学習支援のコンセプト、教材作成と教室での実践に関する講義・ワークショップを行った後、受講者に各所属団体で実践してもらい、結果を発表してもらった。各活動での実施については、地域によってばらばらだったが、意識付けは行えたことがわかった。出前講座以外に単発の講座を3回実施、外国人の状況について理解を深め、社会のあり方、日本語支援のあり方を考える機会とした。</p> <p>3. 教材作成</p> <p>上記1. 漢字教室で使用する教材を作成する。「生活の漢字」学習支援のコンセプトを生かし、標準カリキュラム案と併用できることを視野に入れ、カリキュラム案を読み書きの面から補完する教材を作成した。今回は、さらに教室で使用した教材を、ボランティア現場でも使用してもらいやすいように、改訂を行った。</p>
事業の実施期間	令和元年6月～令和2年3月（10か月間）

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	新矢麻紀子	大阪産業大学 教授
2	服部圭子	近畿大生物理工学部 准教授
3	新庄あいみ	大阪大学 非常勤講師
4	棚田洋平	一般社団法人 部落解放・人権研究所 事務局長
5	中村満寿央	一般財団法人ダイバーシティ研究所 理事
6	山野上隆史	とよなか国際交流協会事務局長
7	御子神慶子	財団法人海外産業人材育成協会 日本語講師
8	橋本尚子	大阪市総合生涯学習センター企画推進係長
9	野村京美	大阪市総合生涯学習センター 企画担当係長
10	掛橋智佳子	関西学院大学 非常勤講師



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	令和1年6月24日 (月)10:00~12:30	2.5時間	大阪市総合生涯学習センター	橋本尚子、野村京美、服部圭子、山野上隆史、中村満寿央、掛橋智佳子、新矢麻紀子、棚田洋平、御子神慶子	1.事業概要説明 2.漢字教室の運営方法の検討 申込み受付、問い合わせ受付、教室/保育室 等
2	令和1年11月9日 (土)16:00~18:30	2.5時間	大阪市総合生涯学習センター	野村京美、新矢麻紀子、服部圭子、棚田洋平、掛橋智佳子、御子神慶子	1.養成講座・出前講座 日程、担当者、内容の検討 2.漢字教室中間報告 出席状況、今後の予定 3.教材作成報告
3	令和2年3月17日 (土)9:30~12:00	2.5時間	大阪市総合生涯学習センター	野村京美、中村満寿央、新庄あいみ、掛橋智佳子、新矢麻紀子、棚田洋平、御子神慶子	1.事業報告 2.次年度の活動について

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	大阪市総合生涯学習センターに、教室の優先受付、教室問い合わせ及び申し込みの受付など教室の運営管理面や外国人を対象とした相談機関への仲介等で協力を得た。また大阪市教育委員会と持続的な学習支援の可能性について協議した。 本事業外でも、吹田市国際交流協会・三田市国際交流協会のボランティアによる文字学習支援の要請に対し講師を派遣した。
------	---

本事業の実施体制	各メンバー・講師への連絡:棚田、御子神 文化庁との連絡:ダイバーシティ研究所理事中村 大阪市総合生涯学習センターとの連絡:御子神 広報および相談業務:棚田 漢字教室と教材作成に関する内容や講師への指示および講師間連携の統括:御子神 漢字教室での指導:小野木、川崎、御子神 (補助者:川島、オーラヌット、掛橋、小野木、棚田、御子神、新庄、新矢) 養成講座の企画:棚田、新矢、川島、掛橋、御子神、小野木、川崎 養成講座運営:棚田 出前講座の講師:新矢、棚田、御子神、掛橋、小野木(補助者を新矢、棚田、御子神、川島、掛橋、小野木) 会計事務:川島、小野木 報告書作成等事務作業:御子神、棚田、掛橋
----------	--

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称：生活者のための「生活の漢字」教室】										
目的・目標	1. 日常生活において必要な漢字を認識できるようになること いわゆる「生活者としての外国人」は、日本語を生活の中で身に付けているケースが多い。そのような形で身につけた日本語の音声言語に文字言語を加えることによって、意味は知っているながらも文字としては認識できなかった語彙、特に漢字語彙が読めるようになることを目指す。 2. 社会生活において読んだり書いたりすることが必要とされる書類の内容がわかり対応できるようになること 役所、病院、学校などの場面で必要な書類が理解できる。住所と名前は書けるようになることを目指す。 3. 漢字学習のストラトジーを身に付けて自律して学習できるようになること 漢字学習継続のために必要な漢字に関する知識と漢字学習のスキルを身に付けることで、自律学習・継続学習を可能にする。									
内容の詳細	シラバスを主に生活場面で構成し、身の回りにある漢字語を使用した。そのため、パソコンを利用し、パソコン画面に生活場面を映し出して生活場面のどこに漢字があるか認識することから始め、学習した漢字を実際の生活の中で見つけて役立てられるようにした。子育て中の人も参加しやすいように託児環境を整備した。また保育所や学校で必要とされる漢字語や読み書きの習得をカリキュラムに加えた。 30回の長期の教室開催を通して基礎力の養成を行った。クラスのなかで学習の遅れが見られる学習者、余裕がある学習者には補助者が対応し、継続的な参加をサポートした。また、漢字教室の見学希望者を随時受け入れ、漢字教室の実践を見てもらう場としての役割も担った。									
実施期間	令和元年6月25日～令和2年2月18日				授業時間・コマ数	1回2時間 × 30回 = 60時間				
対象者	漢字を学びたいと思っている者。簡単な日本語の会話ができる、ひらがな・カタカナがある程度わかる者				参加者	総数 (受講者 43人、 指導者・支援者等 8人)				
カリキュラム案活用	カリキュラム案で取り上げられている場面について、漢字を認識することが生活の質の向上と自立した社会参加につながる場面も多く、そうした場面で目にする漢字語を取り上げ、カリキュラム案とリンクさせた。また、学習成果を検証するため、④を参考にした。									
使用した教材・リソース	本事業で作成した教材・パソコン									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	1	2	2	8	0	16	2	0	1	0
アメリカ1 イギリス1 エジプト1 ガーナ1 スリランカ1 ドイツ2 フランス1 ベラルーシ1 ベルギー1 マレーシア1										
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	令和1年6月25日 (火) 9:45～ 11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	20	・開講式 ・文字チェック ・かな入力	1. 開講式・オリエンテーション 2. ひらがなとかたかなの入力 3. 文字チェック（ひらがな・かたかな・漢字）		川崎	御子神・川島・オーラヌット 小野木・掛橋・	
2	令和1年7月2日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	18	・パソコン入力 ・インタビュー	・パソコン入力（ひらがな・カタカナ・漢字） ・日本地図（都道府県・市・区） ・自分の住所を入力 ・インタビュー		川崎	御子神・川島・オーラヌット 小野木・掛橋・	
3	令和1年7月9日 (火) 9:45～ 11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	16	・カタカナ	・日本語の文字の種類 ・カタカナの認識、読みの練習、ゲーム、書く練習、漢字の中のカタカナを探す ※大阪産業大学の大学生がサポートに入ってくれ、日本語で交流を持ちながらすすめられた。		掛橋	御子神・川島・オーラヌット 小野木 川崎、新矢	
4	令和1年7月16日 (火) 9:45～ 11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	20	・カレンダー	・カレンダー（月・日）の漢字と読み方 ・月ごとの行事を紹介など		川崎	川島・オーラヌット・小野木・御子神	
5	令和1年7月23日 (火) 9:45～ 11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	15	・カレンダー ・ベーシックストローク	・前週に確認したカレンダー（月・日）の読み方を確認し、漢字を書く。 ・漢字にいくつか読み方があることを確認 ・ベーシックストローク		川崎	川島、オーラヌット・御子神・小野木・掛橋	
6	令和1年7月30日 (火) 9:45～ 11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	16	漢字を見つけよう ①	館内で見かける漢字をパソコンで確認した後、グループに分かれて、漢字を見つけるオリエンテーリングを行った。		掛橋	オーラヌット、川崎、御子神、小野木	
7	令和1年8月6日 (火) 9:45～ 11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	16	漢字を見つけよう ②	前回オリエンテーリングで見つけた漢字を写真で再発見しながら、部屋の位置（東西南北）、禁止されてたり・注意べき事柄を確認し漢字を書いて字形を確認した。		掛橋	川島、オーラヌット、川崎、御子神	

8	令和1年8月20日 (火) 9:45～ 11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	13 駅①	駅、JR大阪駅、JR北新地駅、阪急梅田駅、阪神梅田駅、Osaka Metro、御堂筋線、谷町線、四つ橋線、西梅田駅、京阪電車、近鉄電車 路線図 自分が乗る駅、使う線、降りる駅を言う。 ○○駅で○○(線)に乘ります。○○駅で降ります。 書き練習：駅、大阪駅、梅田駅の3語	御子神	川島、オーラヌット、新矢、小野木 掛橋
9	令和1年8月27日 (火) 9:45～ 11:46	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	16 駅②	大阪周辺の駅で見かける語彙を中心に電車に乗るときに必要な漢字を勉強した。漢字教室に通うために乗車・降車する駅を個々に確認し各自に配布、書いて確認した。また特急・急行・普通など電車の種類や、駅のホームで並ぶ位置を写真を見ながら学習した。	掛橋	川島 オーラヌット 小野木
10	令和1年9月3日 (火) 9:45～ 11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	16 住所	居住地について地図を見ながら国→地方→都道府県→市町村→区まで確認の漢字と位置を確認した。郵便番号からの住所変換機能を説明した後、自分の住所を入力した。また奈良公園、ねぶた祭、白川郷などの観光スポットと場所も紹介した。	掛橋	川島、オーラヌット、小野木
11	平成30年9月10日 (火) 9:45～ 11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	15 住所	住所等、書いてある情報がわかる。 (総合生涯学習センター、郵便番号530-0001 大阪市北区梅田1-2-500大阪駅前第2ビル5・6階) 出席者の国と日本を世界地図からさがす。プラス各国の有名なこと、ところ、もの。 書き練習：住所、日本、大阪市、北区、自分の住所	御子神	川島、掛橋、オーラヌット 関学院生（松本、寺尾、斎藤、和田、三好）
12	平成30年9月17 日(火) 9:45～ 11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	19 買い物①	近所の店、スーパー、コンビニで見る漢字 花、葉、茶、米、酒 安売り表示（引、お買得、割引、本日限り、本日の広告の品）	御子神	川島、掛橋、小野木、オーラヌット 関学院生（松本、寺尾、斎藤、三好）
13	平成30年9月24 日(火) 9:45～ 11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	19 買い物②	・先週の言葉の漢字を書く 引、お買得、割引、本日限り、本日の広告の品 ・食品の表示 ～産、国産 豚肉、牛肉、鶏肉、～用、モモ肉、ひき肉、合いびき肉 アレルギー物質 ・今週の言葉の漢字を書く 国産、豚肉、牛肉、鶏肉	御子神	川島、小野木、オーラヌット
14	令和1年10月 1 日 (火) 9:45～ 11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	18 学校①	日本の学校（保育園から大学まで）の語彙、教室（クラス、校長、職員室）、時間割に関係する語彙を確認。9月の行事予定を読み取る（始業式、給食開始、運動会、代休、授業参観、懇談会）	小野木	川島、掛橋、 オーラヌット
15	令和1年10月 8 日 (火) 9:45～ 11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	18 学校	学校からもうお便りの差出人を見つけ、読む優先順位を付ける。「個人懇談会のご案内」を例に、文書様式、お便りの何処を重点的に読むか、内容理解に必要な漢字を学び、希望日時を回答できることを目標にした。	小野木	川島、掛橋、 オーラヌット
16	令和1年10月15 日(火) 9:45～ 11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	14 電気製品	知っている電気製品のなまえをあげてもらい、パソコンに入力して漢字を知る。電気店の案内図を見て、売り場を探す。炊飯器、洗濯機、エアコンのリモコン、テレビのリモコンの操作部を見て、重要な漢字語を学ぶ。	御子神	川島、掛橋、小野木、オーラヌット
17	令和1年10月29 日(火) 9:45～ 11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	18 電気製品②	電子レンジ、炊飯器、冷蔵庫、洗濯機、掃除機を漢字で書く。各漢字の意味、漢字語の構成、漢字の読み方などについて知る。操作部の漢字のうち、予約、時、分、電源を書く。	御子神	川島、掛橋、小野木、オーラヌット

18	令和1年11月5日 (火) 9:45～ 11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター ^{メディア研修室}	14	料理①	料理のレシピを読みたいときに使う、道具の名称、基本的な動詞を確認しパソコンで入力した。また、学んだ語彙が使用されている商品、看板を見て読む練習を行った。	小野木	川島、掛橋、オーラヌット
19	令和1年11月12日 (火) 9:45～ 11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター ^{第5研修室}	18	料理②	料理の基本的な動詞を確認し書き練習を行った。また、学んだ語彙が使用されている食品パッケージの写真を見て読む練習。代表的な調味料を確認し、料理のレシピを読み、材料・作り方を読む練習を行った。	小野木	御子神、川島、オーラヌット
20	令和1年11月19日 (火) 9:45～ 11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター ^{第5研修室}	17	紅葉狩り①	次週、大阪城公園に紅葉狩りに行くにあたって、実際にパソコンでパーティカルツアーを行い、目にするとと思われる漢字を予習した。また紅葉狩りの案内のおたよりを読み、案内によく使われる漢字（集合・解散・中止など）を確認した。	掛橋	川島、オーラヌット、小野木、川崎
21	令和1年11月26日 (火) 10:00～ 12:00	2	大阪城公園	16	紅葉狩り②	大阪城公園駅で集合、先週パソコン上で学んだ漢字のオリエンテーリングをしながら、紅葉を楽しんだ。学習者間や講師との交流を深め、実際に生きた日本語を使う機会となつた。	掛橋	川島、オーラヌット、小野木、御子神
22	令和1年12月3日 (火) 9:45～ 11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター ^{メディア研修室}	15	病院	病院、医院、クリニック、診療所、診療科目、診療日、診療時間、多言語問診票等をパソコン上の写真で認識し、言葉と漢字を学ぶ。	御子神	川島、オーラヌット、掛橋、小野木、見学1名
23	令和1年12月10日 (火) 9:45～ 11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター ^{第5研修室}	14	病院	問診票を見て話し、記入する。病院、医院、診療所を漢字で書く。診療科目の語を確認して、内科、外科、小児科を書く。	御子神	川島、川崎、小野木、掛橋、棚田、見学7名
24	令和1年12月17日 (火) 9:45～ 11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター ^{メディア研修室}	18	薬	病院で処方箋をもらい、薬を受け取るまでの一連の流れを確認。処方された薬の用法・容量を理解するための言葉や表現の漢字（内服薬・外用薬・～日分・毎食後・服用等）書き練習（薬局・朝・昼・夕・食後など）	小野木	御子神、川島、掛橋、川崎
25	令和2年1月7日 (火) 9:45～ 11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター ^{メディア研修室}	14	お正月（作文） 復習	お正月について話し、お正月関連の漢字を学ぶ。話したこと書くなかで、自分が漢字で書きたいことばの漢字を学ぶ。 ストロークを復習する。部首について学ぶ。	御子神	川島、掛橋、小野木
26	令和2年1月14日 (火) 9:45～ 11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター ^{第5研修室}	16	銀行①（引き出し）	銀行の名前、通帳、口座、ATM画面の言葉の読み確認し、ATM引出しの操作手順の内容、語彙の確認を行った。書き練習（銀行、口座、お引き出し、お預入れ、お振り込み）	小野木	御子神、川島、掛橋、川崎、
27	令和2年1月21日 (火) 9:45～ 11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター ^{メディア研修室}	12	銀行②（振り込み）	銀行の振り込みの操作手順の内容、語彙の確認を行った。また、振り込み時に必要な情報についても共有した。書き練習（取消、訂正、確認）	小野木	御子神、川島、掛橋、オーラヌット
28	令和2年1月28日 (火) 9:45～ 11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター ^{第5研修室}	14	仕事①	街中で見る求人のちらしや、web上での求人情報でよく見る語彙を中心に扱った。書き練習（募集、時給、勤務時間）	川崎	御子神、川島、掛橋、オーラヌット
29	令和2年2月4日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター ^{第5研修室}	17	仕事②	手書きで履歴書を作成 書くために必要な漢字と共に、その意味や日本の教育制度、就活に関する情報を学んだ。 書き練習（中学校、高等学校、大学、入学、卒業、入社、退社、学歴、職歴）	掛橋	川島、オーラヌット、小野木
30	令和2年2月18日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター ^{第5研修室}	16	修了式	評価シート記入、アンケート記入、修了式	掛橋	御子神、オーラヌット、新庄、川島、川崎、小野木

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第16回 令和1年10月15日】電気製品

パソコンがある教室での授業。指導者と各自のパソコンに、指導者が準備した教材を前もって入れておき、前のスクリーンに映し出される画面を見ながら、指導者といっしょにパソコンに入力しながら授業を進める。

この回の授業では、まず、各自の知っている電気製品名をあげてもらい、製品名の漢字を電器店の案内図で確認した。受講者は日本での生活が長く、製品名はよく知っている人が多かったが、それを漢字と結びつけるために、認識練習と入力を行った。次に、いくつかの電気製品をとりあげ、操作画面の漢字を学習した。炊飯器では、普段の操作を思い出しながら、表示されている保温、炊飯、予約などの漢字を確認した。受講者から、「予約」がわかったので、朝早く起きなくてよくて助かる、という発言があった。洗濯機では、電源、入、切、洗い、すぎ、予約、水量、ふろ水、自動槽洗浄などの表示を学習したが、これまできれいに洗えなかった、今(理由が)わかった、という声があった。テレビやエアコンのリモコンを学習した際は、今まで旦那さんにやってもらっていた、これから自分でできるという受講者がいた。また、dボタンについて、よく知っている人から便利な機能を教えてもらう場面もあった。第16回に使用したエアコンのリモコンの写真は、指導者宅のリモコンの簡単モードの画面であったが、自宅のパソコンのリモコンはもう少し複雑という受講者の話から、次回第17回には、風量・風向の設定等を含めた、やや複雑な操作画面の写真を準備して、学習した。

パソコン教室の次の回は基本的に通常の教室で行い、メディア教室でパソコンを使用して学習した漢字を書く時間を設けている。2回扱うことと、書くことによって、字形の認識を確実にすることで、より定着しやすくなることを目指している。



※パソコン教室での授業風景



※パソコンを使わない授業の風景

○取組事例②

【第21回 令和1年11月26日】紅葉狩り

新たな取り組みとして、前週に、予め下見で撮影した大阪城公園の写真をパソコン画面に映し出し、バーチャルツアーワークを行って、写真の中の漢字を予習をした上で、実際に大阪城公園に出向き、その漢字を探す活動を行った。

習った漢字の一覧を手に、他の学習者と日本語で楽しく談笑しながら、漢字を見つけて、読んだり、確認したりした。

お天気にも恵まれ、美しい紅葉の景色も楽しむことができた。また大阪城の歴史の展示もあり、ボランティアの方から英語や、やさしい日本語でお話を聞くこともできた。子どもを連れてこられた学習もいて、和やかに交流も深められる楽しい一日となった。



(2) 目標の達成状況・成果

目標の達成状況を検証するため、アンケートと診断テストを用い、最終回出席の受講者に対して実施した。診断テストは、開講時に一度実施しており、同じ内容で終了時にも実施することによって、この漢字教室に参加した結果、漢字の習得が進んだかどうかを評価した。

この教室の第1の目標は、日常生活において必要な漢字を認識することができる。診断テストにをみると開始時に比べて生活の中の漢字に気づくことができている人が多く見られ、また正確に書けなくてもひとつでも多く書こうという意欲が見られた。特に書ける漢字をリストアップする項目では、自分の名前、住所をあげている学習者が多く、繰り返し練習した効果が表れていたのではないか。

今回はタイ出身の学習者が多く、日本語での意思伝達がある程度できるという本来想定している対象とはいえない受講者も、タイ語話者の補助者や他の学習者の支援を受け、最後まで教室に参加することができ、さらに他の言語の話者ともコミュニケーションを取ることで、徐々に日本語による会話も見られるようになった。これまで日本人配偶者に頼っていたリモコンの操作やATMでの引き出しなどを自分で行えるようになったという報告もあり、漢字が理解できることで、生活が便利になり、日本社会への理解を深めてもらうことができたと考える。

第2の目標は、社会生活において読んだり書いたりすることが必要とされる書類の内容がわかり、対応できるようになることである。今年度も学校に通う子供のいる学習者が多く見られたため、学校のお知らせを取り上げた。どこに大切な情報が書いてあるかなど、最低限必要な情報の選び取り方、漢字の読み方や内容を学ぶことができ、初めて学校のお便りを手に取った、会社の通信がわかったという報告も受けた。社会生活において書くことを求められる「住所」や家族の名前にについては、全員がほぼ書けるようになった。

3つ目の目標は、漢字学習のストラテジーを身に付けて自律的に学習できるようになることである。受講したアメリカ出身男性、ベトナム出身の女性、インドネシア出身の女性は、滞在歴は長く、日本語でコミュニケーションはでき、またこれまで、何度も自分で学ぼうと挑戦したことがあっても、挫折を繰り返してきたとのことであったが、いずれの方々も、今回、漢字学習の考え方、方法を身に付けたことで、今後の継続的に自分で学んでいこうという意欲ができたと述べている。一方、日本語によるコミュニケーションが十分にできない学習者については、まだ漢字学習へのレディネスが十分ではなく、今後も継続的な助けが必要であり、教室の開催を望む声が多かった。

このように、上記3つの目標について一定の成果があつたと考える。さらに、漢字を学ぶことで、日本で生活することに「自信がついた」との声は多く、就職活動を行い決まつた学習者もいた。日本人配偶者の中には「家族との意思疎通に役立った」「家族に頼ることなく自分ができるようになった」など、家族関係が良好になったことを喜ぶ声も聞かれた。漢字学習は、単にリテラシーの獲得だけではなく、自己肯定感を高め、生活の質を上げる一助になっているのではと考えられる。

(3) 今後の改善点について

学習者間のレベル差が大きいことで、時にできる学習者が手持ちぶたさになってしまう場面が見られた。補助者がついたり、学習者同士で教え合ったりすることで、一定程度は解消できているが、自習教材を用意するなどの配慮が考えられるのではないか。

視覚的な情報を多く取り入れることで、漢字の認識をスムーズにするため、教材のカラー印刷が好ましいが、費用が嵩むため、学習者負担となると難しい。さらに学習者から、教室外でも勉強できるような教材がほしいとの要望もあり、多くの学習者が常に携帯しているスマートフォン等ITをどう利用していくのか、教材についての検討も今後の課題である。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施 【活動の名称:①生活者のための日本語学習支援者養成講座 ②生活者のための漢字学習支援者養成出前講座】

目的・目標	当事業で実施する日本語教育(生活者のための漢字学習)プログラムの理念・実践の周知と拡充												
内容の詳細	<p>①受講者が、生活者としての外国人に対する日本語学習支援にかかる理念・背景についてワークショップ形式で学ぶことで、言語保障としての日本語学習支援活動の重要性について理解し、実践につなげる。その際、昨今の移民施策の動向をふまえた内容として、今後の地域日本教室のあり方について受講者とともに考える機会ともする。</p> <p>【第1回(3時間)】 移民政策に向けての言語保障としての日本語教育 神吉宇一 【第2回(3時間)】 移民に対するリテラシー教育の意義—「生活の漢字」の理念と教育実践から 新矢麻紀子 【第3回(3時間)】 「生活者のための漢字学習支援」の実際～実践と教室活動の概要 「生活の漢字」をかんがえる会メンバー 【第4回(1.5時間)】 「生活の漢字」教室の見学 「生活の漢字」をかんがえる会メンバー</p> <p>②当事業で実施する日本語教育プログラム「生活者のための漢字学習支援」を、他地域でもひろめるために、漢字学習支援の理念や実践などについて学ぶ支援者養成講座を出前講座として実施する。講座の内容は以下のとおりである(各講師の所属先については最下欄参照)。第1回(3.5時間)で「生活者のための漢字学習」の理念・実践のレクチャーをおこない、参加者にはそれをふまえて実際に活動をしてもらい、第2回(3時間)でそのふりかえりと評価を実施することで、講座受講による変容と定着の度合いをはかる。</p> <p>【第1回】「生活者のための漢字学習支援」の理念と実践のレクチャー 御子神慶子・棚田洋平・新矢麻紀子 【第2回】「生活者のための漢字学習支援」にもとづく活動実践のふりかえりと評価 御子神慶子・棚田洋平・掛橋智佳子・小野木愛</p> <p>なお、①②ともに、『日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告案)』(文化審議会国語分科会日本語教育小委員会、平成29年12月25日)で指摘されている、「日本語学習支援者」や「日本語教員【初任】(生活者としての外国人)」に求められる資質・能力に応じた、講座内容を企画している。</p>												
実施期間	<p>①令和元年9月21日、11月9日、12月10日、12月14日 ②令和元年11月10日、11月17日、令和2年1月18日、2月1日、2月2日、2月22日</p>				授業時間・コマ数	<p>①3時間×3回、1.5時間×1回(10.5時間) ②6.5時間×3回(19.5時間)</p>							
対象者	<p>①・②ともに地域日本語教室で実際に支援活動にあたっている者、もしくは支援活動をはじめようと考えている者</p>				参加者	<p>総数231人 (受講者204人、指導者・支援者等27人)</p>							
カリキュラム案活用	<p>カリキュラム案の「生活者の必要」「生活者の視点」というコンセプトは、上記の研修・講座のいずれにおいても重要な観点であるので、カリキュラム案を受講生に紹介し、参考にしてもらった。</p>												
使用した教材・リソース	<p>各講師によるオリジナル教材(レジュメ、資料)</p>												
受講者の出身(ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン 日本				
									204				
養成・研修の実施内容													
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名				
1	令和元年9月21日(土) 13:30~16:30	3	大阪産業大学 梅田サテライト	20	移民政策に向けての 言語保障としての日本語教育	移民政策の一環としての言語保障という観点から、日本語教育のあり方について考える		神吉宇一	棚田				
2	令和元年11月9日(土) 13:30~16:30	3	大阪産業大学 梅田サテライト	27	移民に対するリテラシー教育の意義	「生活者としての外国人」に対するリテラシー保障という観点から、「生活の漢字」の理念を学ぶ		新矢 棚田	新矢 棚田				
3	令和元年11月10日 (日) 13:30~17:00	3.5	ローズWAM 501・502号室	32	「生活の漢字」学習 支援の理念と実践	「生活の漢字」学習支援の理念と、その実践について学ぶ		棚田 御子神	御子神 棚田 川島				
4	令和元年11月17日 (日) 13:30~16:30	3	茨木市福祉 文化会館 202 号室	21	「生活の漢字」学習 支援の実践の振り返り	「生活の漢字」学習支援を活動に取り入れてみての振り返りと共有をおこなう		御子神 棚田	棚田 御子神 川島				
5	令和元年12月10日 (火) 10:00~11:30	1.5	大阪市立総合 生涯学習セン ター 第5研修室	7	「生活の漢字」学習 支援の実践見学	「生活の漢字」学習支援教室の見学をとおして、「生活の漢字」の実践について学ぶ		小野木	棚田				
6	令和元年12月14日 (土) 13:30~16:30	3	大阪産業大学 梅田サテライト	27	「生活者のための漢 字学習支援」の実際	「生活の漢字」学習支援教室の概要と学習 支援の内容について具体的に学ぶ		御子神 掛橋	掛橋 御子神				
7	令和2年1月18日(土) 13:00~16:30	3.5	イーグレヒメじ 4階セミナー 室A	28	「生活の漢字」学習 支援の理念と実践	「生活の漢字」学習支援の理念と、その実践 について学ぶ		新矢 御子神	御子神 新矢 小野木				
8	令和2年2月1日(土) 13:00~16:00	3	イーグレヒメじ 4階第1会議 室	20	「生活の漢字」学習 支援の実践の振り返り	「生活の漢字」学習支援を活動に取り入れて みての振り返りと共有をおこなう		小野木 掛橋 棚田	棚田 掛橋 / 小野木 オーラズット				
9	令和2年2月2日(日) 13:30~17:00	3.5	近畿大学生物 理工学部 10号 館	9	「生活の漢字」学習 支援の理念と実践	「生活の漢字」学習支援の理念と、その実践 について学ぶ		新矢 御子神	御子神 新矢 川島				
10	令和2年2月22日(土) 13:30~16:40	3	近畿大学生物 理工学部 10号 館	13	「生活の漢字」学習 支援の実践の振り返り	「生活の漢字」学習支援を活動に取り入れて みての振り返りと共有をおこなう		小野木 掛橋 棚田	棚田 掛橋 小野木				

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【教室見学 令和元年12月10日】

今年度の養成講座は、「生活の漢字」学習支援の理念と実践を学ぶことを目的に、3回の養成講座を実施した。その養成講座の一環として、「生活の漢字」学習支援の実践を実際にみる機会(教室見学)をもうけた。教室見学の際には、カリキュラムや教材、授業形式等の説明をしたうえで、グループにわかれ、実際に「生活の漢字」学習支援の「補助者」としての役割を体験してもらった。当日のふりかえり等をみる限りでは、養成講座で学んだことを、実際に体験することをとおして、よりいっそう参加者の学びが深まったことがうかがえた。



○取組事例②

【出前講座第2回@姫路 令和2年2月1日】

出前講座は、研修機会の少ない遠隔地に出かけ、「生活の漢字」の理念と学習支援方法に関して講義とワークショップを行い、人材を養成するものである。今年度は3地域(大阪府茨木市、兵庫県姫路市、和歌山県紀ノ川市)にて、1地域2回の講座を開催した。昨年度と同様、「講座の成果」、すなわち「講座の内容について実際に教室活動に取り入れられているかどうか」を把握することを目的とした。そのため、第1回に「生活の漢字」実践にかかるレクチャーをおこなったうえで、実際のそれぞれの教室活動でその実践を取り入れてもらい、第2回に実践をしてみてのふりかえりと評価を実施するという構成とした。

実際に教室活動に取り入れてみると、「講座の成果」を把握することができ、受講者にとっては実践の意義や課題について実感することにつながったとおもう。ただ、受講者の中には、実践に取り入れることが難しかった者もあり、「話を聞く」だけの単発の講座に終わらない工夫がより求められる。

なお、姫路でおこなった第2回の講座では、本事業の日本語教育活動の補助者を務めており、姫路市在住である、外国人の支援者の方に、当事者としての観点から、「生活の漢字」学習支援の意義について語ってもらった。「当事者の声」をとおして、講座受講者の学びが深まったことが、アンケート結果等よりうかがえた。



(2) 目標の達成状況・成果

各回の講座終了後にアンケートを実施し、受講者の講座内容に対する評価や理解度、今後の日本語支援活動への影響について把握することに努めた。アンケート結果を見る限りでは、各回の講座内容に対する評価、理解度はおしなべて肯定的な意見が多く、本講座の目的・目標を達成できたと思われる。また、養成講座とは別途、出前講座を実施することで、講座への参加の機会をより多く設定することができた。

(3) 今後の改善点について

- ①養成講座については、本事業で実施している教室活動(「生活の漢字」学習支援)の理念と背景、そして実践を共有することを目的としたが、アンケート等の結果をみると、グループワークを取り入れることで、学びの定着につながったことがうかがえる。また、講師の講義内容のみならず、参加者間のやりとりを通しての学び合いもあった。ただ、本講座の目的は、「生活の漢字」学習支援の実践をそれぞれの教室活動の際に取り入れてもらうことであるが、その把握ができておらず、来年度以降の課題としたい。
- ②出前講座については昨年度と同じく、第2回を「ふりかえりと評価」として「講座の成果」を把握するような構成にしたが、昨年度と比べて、講座で学んだことを実際の教室活動に取り入れる受講者が多く、第2回の進行が昨年度よりはスムーズであった。その要因・背景について分析し、来年度以降の養成講座の内容・形式に活かしたい。また、昨年度と同じく、予算の都合上、一部の経費(講師等の交通費)を受入先の団体の負担とせざるをえなかつたが、それにより受講をためらう団体・教室もあった。

日本語教育のための学習教材の作成【教材の名称：生活場面から文字を学ぶ】			
目的・目標	漢字学習に興味を持ち、学習を継続することを可能にするため、生活中必要な情報や役に立つ情報が得られる漢字語を学ぶ教材を作成する。生活場面に基づく標準カリキュラムとの併用もできるようにする。		
内容の詳細	<p>以下のようなコンセプトで教材を作成した。教材はスタート時に打ち合わせを行った後、各自で作成した。さらに地域のボランティア教室でも使用しやすいように、教材を持ち寄り、内容を検討し、編集するための会議を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 構成：場面シラバス。主に生活する上で必要な場面から学習漢字を抽出。 写真などで文字・漢字がある場面を認識する。場面中の漢字を学習する。 お便りなどでは、必要な情報がどこにあるかを学び、情報を得るために最低限必要な漢字を学習する。 字形の認識、音のパート、意味のパート(部首)、漢字語の構成などでくつた、体系化のための学習部分も挟む。 		
実施期間	令和元年6月20日～令和2年3月17日	作成教材の想定授業時間	1回2.5時間 × 28回 = 70時間
対象者	日本で生活している外国人。日本語で簡単な会話ができる、読み書きを学びたい人。 (及び 学習者を支援する地域ボランティアの使用も想定)	教材の頁数	273 ページ
カリキュラム案活用	「生活者としての外国人に対する日本語教育の標準的カリキュラム案について」では、生活場面について主に会話が扱われているが、文字には重点が置かれていない。文字の視点からの教材を作り、「カリキュラム案」に文字学習支援を加えた。		
事業終了後の教材活用	養成講座の受講者に紹介・一部を配布し、所属している各教室や活動場所での活用を勧めるとともに、文化庁NEWSへの掲載を予告、利用を呼びかけた。		
成果物のリンク先	文化庁NEWS		



4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

地域に根ざして生活する外国人さらに日本に定住予定の外国人に対して、地域日本語教育の専門家が漢字(あるいは文字)教育を実施することを通して、外国人がより広く、より深く社会に参加していく、社会の多様性に資することを目標とする。漢字教室においては、漢字について知識を得、必要な漢字が理解できるようになることを目指す。パソコンを使用し視覚教材を多用することで生活場面で目にする漢字語から漢字を学び、語にまつわる情報を得たり、文化的背景を理解したりしながら、文字学習の方策を身に付ける。また、漢字を使って文を書くことを通して日本語の文を作る力を身に付けながら、自己表現力を育成する。さらに、漢字教室を見学者に公開することで、生活者のための漢字学習支援方法の普及を目指す。漢字教室で使用する教材は独自に作成し、文化庁NEWSで公開して、各地からの利用を可能にする。養成講座においては、外国人の社会参加に繋げる日本語支援の担い手を育成することを目指す。2019年度においては、2018年の外国人労働者受け入れ決定の流れを受け、地域での日本語支援のあり方についても議論が予想されるところである。各地域の日本語ボランティアや外国人支援者、日本語教師が集い、社会の動向を知りつつ、社会参加を可能にするための日本語学習や文字学習の必要性について深く理解し、それぞれの支援のあり方を共に考える機会としたい。それによって、受講者自身の意識改革をもたらし、ネットワークを強化することを目的とする。漢字学習支援方法の普及については、漢字教室を実施している大阪市の中心地だけでなく、漢字学習支援に当たる者が講座を受講する機会が少ない地域へ出向き、必要な人に必要な情報を届ける「出前」講座を行う。出前講座においては、漢字学習支援のスキルを学ぶにとどまらず、地域日本語教室を担うボランティアとしての姿勢を身に付けることにも留意する。受講者が講座で学んだことを実践し、結果を報告する機会を作り、振り返りを行うことで、よりよい活動につなげる。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

作成した教材に、標準的なカリキュラム案と関連する項目がある場合はそれを示した。また養成講座にて受講生に紹介し、活用方法を考えた。標準的なカリキュラムは生活場面について様々なケースが挙げられているので参考になるが、会話の習得が主であり、読み書きについては触れられていない。今後は文字習得の側面においても標準的なカリキュラムを作成する必要があると考えられる。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

大阪市立総合生涯学習センターと運営面で連携し、受講生の募集、教室の確保等、幅広い面で協力を得た。漢字教室受講者が本講座終了後に居住地域の日本語教室で継続的に学習ができるように、大阪府内の日本語教室一覧を受講者に配布した。また、養成講座の受講生の活動先の教室にも参加できるように、橋渡しを行った。また大阪市教育委員会からも見学を受け入れ、漢字学習支援の継続開催・必要性について理解を求めた。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

大阪市内の識字・日本語教室と近隣の市の国際交流センターにチラシを郵送した。また、当事業運営メンバー各自の関係先でも配布した。ダイバーシティ研究所・大阪市立総合生涯学習センターのホームページで広報した。本事業での実践を参考にしたいということで、見学者を受け入れた。(吹田市国際交流協会)
漢字学習支援を含めた講座実施の依頼があり、本事業外で研修の講師を務めた。(三田市国際交流協会)

(6) 改善点、今後の課題について

今年度漢字教室においては、教室開始時での希望者が多く、キャンセル待ちが出た。使用できるパソコン台数の制限もあり、1ヶ月以上受講を待っていただくことになった方もいた。元学習者であるタイ母語話者の補助者がいることで、タイ人コミュニティにアプローチでき、また手厚いサポートが可能となったこともあり、タイ語話者の参加が多かった。基本的な会話ができる方を対象にしているが、母語話者の補助があれば、より広い範囲の学習者にサポートができることが示唆された。養成講座においては、梅田での3回の講座と、3団体への出前講座を行った。出前講座では2回の講座の間に各受講者に各自の教室で漢字活動を実践してもらい、2回目で発表とフィードバックを行ったが、1回目と2回目の参加者が異なる団体もあった。活動を未だ開始していない受講生もいることから、課題についてより実践がしやすい形、助言等を考えたい。教材については、学習者から自習や継続学習のためにスマホで閲覧できる教材が欲しいという声があり、検討を考えている。事業全体については、常時教室が設置できないことが課題である。来年度は単発的な事業ではなく、継続的に実施できるような形態を必要性と可能性について大阪市教育委員会と協議を重ね、再来年への実施を目指す予定である。

(7) その他参考資料

1. 漢字教室チラシ
2. 養成講座チラシ
3. アンケート集計(漢字教室)